

令和7年度 第1回千葉県博物館協議会 議事録

日時：令和7年8月28日（木） 午前10時00分～12時30分

会場：千葉県立中央博物館 会議室

出席者：委 員 高橋委員（議長）、卯木委員、齋藤委員、臼坂委員、布施委員、門脇委員

【オンライン】関沢委員、鴻野委員

博 物 館 美 術 館：貝塚館長、高山副館長、立和名普及課長

中 央 博 物 館：四柳館長、田中副館長、半澤副館長

現代産業科学館：松田館長、小笠原学芸課長

関宿城博物館：糸原館長

房 総 の む ら：西原館長、鎌形副館長兼事業課長

文化振興課 山口副参事兼室長、小野主幹、村田副主幹、宮川副主査、鈴木技師

事 務 局 猪野企画調整課長、監物上席研究員、川島副主査

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿、座席表
- 3) 議事資料

1 開会【事務局】：委員10名のうち9名の出席により会議成立（うち2名オンライン）

2 あいさつ【中央博物館：四柳館長】

3 出席委員自己紹介

4 出席職員自己紹介

4 議事（別紙参照）

5 諸連絡【事務局】

6 閉会【事務局】

【議事】

互選により高橋委員を議長に選出

○高橋議長：本日も活発な議論をよろしくお願いしたい。本日は3点の報告。1番目と2番目は併せて報告いただく。

(1) 令和6年度千葉県立美術館・博物館事業報告

(2) 令和7年度事業計画について

資料1、2及び補足資料に沿って、各博物館の館長から説明を行った。

※報告（1）においては、県立美術館・博物館の令和6年度事業とともに、各館の自己評価結果を報告しましたが、評価の算出方法に誤りがあったことから、自己評価に関する議事を要旨より削除いたしました。

なお数値の誤りを修正した自己評価結果は、令和7年第3回博物館協議会において再度報告の上、議事要旨を公開する予定です。

【県立美術館について】

○布施委員：「コレクション100選」の発刊など、美術館としてのアイデンティティを考えて追いかけていく姿に深い感銘を覚えた。2点質問だが、①移動美術館のコンセプト等、市との関連性等の考えを教えていただきたい。②子どもとのかかわりとしてミュージアム・バス事業という新しい取組みを試みることは大変すばらしいと思うが、その他に美術館近くの学校とのかかわり等があれば教えていただきたい。

→美術館：①移動美術館は、年1回、美術館が展示内容、展示費用を受け持ち、受け入れ側では広報活動のみ行うプログラム。毎年夏頃、次年度の開催希望市町村を募り、手上げのあった市町村と調整して実施している。費用、開催会場の規模、開催地の歴史、どういった出身の作家がいるか等を含め、美術館2,900点のコレクションの中から、展示するものを選び、館担当者と自治体担当者が話し合ってプログラム、コンセプトを作り上げていく。今年開催の成田市は「空を通じていろんな人が移動する」がコンセプト。

②近隣の小学校とのかかわりについて、美術館近隣は人口が多く、公共交通機関を使わずに来られる小学校が複数ある。館側からの出前授業等も実施している。

○鴻野委員：「千葉県立美術館コレクション100選」の発刊は、美術館の魅力や内容を詳しく知らしめる取組みであり、大きな意義があったと思われる。

館内のバイリンガル表記が進んだ点は、多様な方が美術館にアクセスしやすい基盤を作ったという点で喜ばしい。バイリンガル表記は貴重な取組みのため詳しく伺いたい。特別な予算を組んだのか、またどの程度の期間をかけて取組んだのか。

→美術館：バイリンガル表記は大変な作業で1年かかった。特別予算を組み、翻訳会社に2,900点

の作品データの翻訳を依頼したのだが、担当した訳者によって訳が異なる等の問題が発生し、担当者による確認・修正作業に数か月を要した。

○門脇委員：外国人来館者数が非常に増えている理由について伺いたい。元から増加傾向があったのか急に増えたのか、在日外国人か観光客か、分かる範囲で教えていただきたい。

また入場料が見込みの28%になった理由や回復させていく具体的な手法、検討内容があれば教えていただきたい。

→美術館：外国人客は、体感としてそれほど増加している印象はなく、データの安定性については不明瞭。東アジア・南アジアの方が多い印象。在日外国人か、観光客かの確認はしていない。

入場料問題は大変大きいが、公立の施設であり、県民へのサービスが主目的（小中学生無料、65歳以上無料）であるため、制度上の制約が多いのが実情。収入増のためにも、親子連れプログラムやポートパークとの連携により、新規来館者を開拓する取組みを検討している。特効薬はないので地道に取り組んでいきたい。

○臼坂委員：パブリックな美術館のハードルを下げようと尽力している印象を感じた。以前訪れた際は、一般の人が美術館前を通るときに「美術館がここにあるよ」というシンボリックなものが少なくて、寄って行きにくいと感じたが、今回、改善の意識を感じた。

展示室も多いため、じっくりと作品を鑑賞した後、私立美術館のような大きなグッズ売り場で鑑賞の余韻に浸りながら売り場を眺める等、最後の余韻のスペースが充実すればよいと感じた。

英語表記も含め、世界の方々が来てくれるようハードルを下げる取組みをされている。引き続き、私たちNHKもお手伝いをさせていただきたい。

→美術館：頼りにしているので、よろしくお願ひしたい。

○斎藤委員：幅広く入場者数を伸ばす努力が伝わった。「ぐるぐるアート夏休み」やバス事業など、特に子供たちに向けた楽しい企画で働きかけを工夫している。個人的には、美術館に行くことがとても好きなのだが、考えてみると、学校としてまとまって美術館に行く機会は、博物館や科学館に比べて少ない。子供たちが美術館に行くことで、感性や知識を広げるなど、たくさんの効果があるだろう。

布施委員の質問への回答で、近隣の小学校への出前授業も行っているとあったが、授業内容について、詳細を伺いたい。また、「ぐるぐるアート夏休み」の小・中・高の交流も併せて伺いたい。

→美術館：出前授業はいくつかのパッケージから、先生との打ち合わせで決めている。「ぐるぐるアート夏休み」は、近隣小中学校にチラシを配布したが、学校単位で来てほしいというアプローチは行っていない。開催2か月前にプログラムの詳細が決まったため、学校単位で働きかけるには遅かったことが理由。ただ、チラシ配布により、例年に比べて多くの子供たちが訪れている印象。

○高橋議長：学校関係の行事は早めに決めなければ、なかなか来てもらえないと思うが、どのようなサイクルで回しているのか、スケジューリングを伺いたい。

また昨年の「浅井忠展」は、NHK日曜美術館のアートシーンで取り上げられたが、メディア露出

の影響・評価、当サブメニューとして実施していた様々な企画の影響・評価についても、併せて伺う。

→美術館：サイクルは、事業を1年間実施した上で、現場の自己評価を元に、良いものは残し、悪かったものはなくしている。「ぐるぐるアート夏休み」は来年度も実施予定で、今年度の実施結果を踏まえてより良くしていく。

「ミュージアム・バス事業」は、今年度初めての取組みで、昨年度後半から学校へアナウンスしてきた。来年度はより積極的にやっていくため、今からアナウンスを始めている。

「浅井忠展」は、12月末にNHK日曜美術館アートシーン（5枠）で取り上げていただき、効果は絶大だった。展示は10月初めに始まり、出足は非常に悪かったが、年明けからの増加が著しかった。また11月くらいから様々な企画を通じて薄いた種が実ったこともあり、人が動くには複合的な理由、後押しが必要であったと思われる。

現在開催中の「高島野十郎展」は、今後、日曜美術館の45分枠で取り上げていただく予定であり、その結果も楽しみにしている。

【県立中央博物館について】

○高橋議長：入館者数が昨年とほぼ一緒とのことだが、ここ数年は横ばいか、増加傾向にあるのか、全体の傾向はどうか。コロナ前に比べて、9割くらいまで戻っているか。

→中央博物館：どの館もそうかと思うが、コロナで減り、5類感染症への移行後、少しづつ戻っているが、まだ回復していない状態。「実施計画」で指標として目標人数を定め、いろいろと試行している。今年度は前年度比で増えている実感がある。コロナ前比で7～8割ほど。

○高橋議長：各館も同じような状況か。何か原因等はあるか。

→関宿城博物館：関宿城博物館は、個人入館者数は戻っているが、団体入館者数が戻っていない。バス代の高騰等により、小・中学校の校外学習での来館が減ったことが主な要因。

○高橋議長：来館者増のための取組み等はどのようなことをしているか。

→中央博物館：今年度はSNSによる情報発信等に力を入れており、肌感覚だがSNSを見ている世代、まだ子供が小さい若い家族連れが増えている印象がある。

○門脇委員：団体客は日本全体で減っている。バス代の高騰や、学校関係は生徒数の減少も影響していると思われる。ただ、コロナ後の戻り方は施設によって異なる。毎年新しい展示・取組みがあるので、広報やSNS発信を強化するのはよい。

○布施委員：来館者増は重大なテーマなので、引き続き取り組みをよろしくお願いしたい。今朝、分館海の博物館のニュースを見た。魚好きの児童が発見した魚を館へ持ち込み、研究員の協力によって論文を執筆して発表したという内容で、とても素晴らしい。全体へのアプローチもとても大切なテーマだが、子供や若者層に対して、博物館の研究員という高度な専門性を持った方が身近にいる意義は非常に大きい。なかなか忙しくて難しいとは思うが、子供たちとの接点を持てる日常的な取組みが増えるとより素晴らしいのではないか。

→中央博物館：当館には様々な市民サークルがあり、研究員が中心となって、その分野が好きな子供たちや大人が集まる会を定期的に行っている。現場を見ると、参加した子供たちが目を輝かせている様子が見られる。こういった機会をぜひ増やしたい。

○臼坂委員：青葉の森公園との連携は、「あおばまつり」等に合わせて連動的な展示を行っているのか。

→中央博物館：関連展示ではなく、体験イベントの出展をして、そこで館の存在をアピールし、館への誘導を狙っている。

○臼坂委員：中央博物館はアクセス面でハンデがあると強く感じる。バスを増やすなどは難しいと思うが、周辺にあるものを利用することがとても大事。

→中央博物館：青葉の森公園内には、青葉の森公園管理事務所、芸術文化ホール、スポーツプラザ、わんぱく広場等の様々な施設がある。また数年後には県立図書館・文書館複合施設ができる予定。公園内の回遊性も含めた検討を各施設の代表が集まる場で始めているので、委員のご意見も館から提案していきたい。

【県立現代産業科学館について】

○高橋議長：「産業キャリアイメージ形成支援事業」について、企画としてどのような流れで進めるのか。

→現代産業科学館：まず企業については、千葉県教育委員会のちば家庭・学校・地域応援企業等登録制度に登録している教育C S Rに取り組む企業であること、館の活動趣旨に賛同していること、日帰りの企画であるため近隣であること等を理由に選定している。

○高橋議長：引率は現代産業科学館が行っているのか。

→現代産業科学館：引率は館が行っている。応募者は学校に集合し、バスで迎えに行き、そこから企業に向かう流れ。

○高橋議長：現代産業科学館で毎年8月にプラネタリウムを開催していることは周知できていると思うが、入場者数は安定しているのか？

→現代産業科学館：今年は約14,000人と昨年より増加傾向にある。プラネタリウムの制作者である大平氏はファンが多く、新作が公開されたことの影響が大きい。またプラネタリウムは見る位置によって見え方が変わるために、リピーターも多い。

○高橋議長：展示だけでは難しいところを、体験イベントや企業の最先端技術の紹介など様々な企画で補っている印象があるが、どのように企画しているのか。

→現代産業科学館：展示・運営協力会という90の団体・企業・大学・研究機関が参加する会がある。この会に館の企画の構想をお伝えし、展示・イベントに協力していただく形で実施している。

【関宿城博物館について】

○布施委員：新たな取組みへのチャレンジが、とても素晴らしい。クイズラリーで近隣の店とタイアップするとの説明があったが、商店との交渉ではどのようなことに企画を説明したのか。

→関宿城博物館：当館は地域連携に非常に歴史のある館。商工会をはじめ、各所と結びつきが深い。また野田市だけでなく、茨城県坂東市、境町、五霞町、埼玉県幸手市と、県をまたいで付き合いがあるため、自治体に相談しながら、各店舗を周り、説明し、協賛を集めた。

○布施委員：クイズラリーのチラシはどのくらいの範囲で配布するのか。

→関宿城博物館：県内全体に配布予定。さらに県をまたいで、周辺地域にも丁寧に配っていきたい

と考えている。

○布施委員：例えば、館周辺の商業施設でブースなどを借りて宣伝はできるのか。

→関宿城博物館：連携している地域団体が大きなイベントに出展する際、告知してもらうよう相談している。また、開始前日である9月13日には、関東有数の花火大会である利根川大花火大会が当館の前で開催予定。この時に、クイズラリーをプレ開催し、花火大会のお客さんに、地域の歴史も知ってもらおうと考えている。

【房総のむらについて】

○門脇委員：3館合同スタンプラリーは、小学生以下が対象となるか。

→房総のむら：小学生以下を対象に、オリジナルプレゼントなどを用意している。

○門脇委員：小学生向けであるなら、チラシに使用する写真を小学生とすると良い。また、外国人向けにやるのも良いのではないか。成田空港周辺のホテルは、多数の外国人が宿泊している。時間つぶしや飛行機の時間待ちで泊まる等があると思う。うまく誘導できると良いのでは。

○高橋議長：2点質問がある。体験者数の考え方のところで、まつりだけを別で出しているのは、体験の内容が異なる等の理由があるのか。

→房総のむら：普段と同様に行っているものがほとんどだが、特別に実施する体験もある。まつりはむらの特別な企画であり、そこを中心に動く部分があるため、数字を整理して出している。

○高橋議長：延べ数を見ると、かなりの数の方が体験に参加しているようだが、これだけの体験者に対応するには相当の職員数が必要となる。運営上難しいといったことはないか。

→房総のむら：職員は、アルバイトのような雇用形態も含めて100名ほどいる。ただ、技術を伴うものもあり、募集をかけても人がなかなか集まらず、職員の高年齢化も課題となっている。また体験演目の内容そのものも、見直しをする時期に入っていると思われる。

○高橋議長：外国の方も多いと思うが、言葉の問題などはどう克服しているか。

→房総のむら：翻訳機を用意しているが、大体は身振り手振りや英語表記をした説明書きで対応はできている。団体客の場合、日本語がわかるコンダクターに通訳に入ってもらうこともある。

○高橋議長：「宣伝キャラバン隊」は、どういったところへ宣伝に行くのか。

→房総のむら：令和6年度の実績では、成田市内の空港イベント、成田山参道、イオン津田沼物産展など。学校から希望があれば、学校への出前授業も行っている。声がけいただき、職員の対応が可能な日程であれば、館のアピールということで積極的にいろいろな場所へ出向いている。

○高橋議長：単なる宣伝だけでなく、体験なども一緒にできる宣伝をしているということか。

→房総のむら：イベントにより、チラシを配るだけのパターンもあるが、基本的には、けん玉・泥めんこ等を持っていき、実際の体験をしてもらうことを一番やりたいものと考えている。

○高橋議長：この宣伝の効果はどういった風に評価しているか。

→房総のむら：「こんなことをやっているところがあるんだ！」と喜んでイベントに参加される子供もいるので、それに伴って御家族にも当館を知っていただき、今度行ってみようかなという想いにつながっていけばいいなと思っている。

○布施委員：門脇委員の御質問に被るが、様々なPRをしていると思うが、地元のホテル・タクシー・鉄道・旅行会社への特別なアプローチなどはしているか。

→房総のむら：周辺ホテルとは、割引ができる協賛制度を結んでいる。また当館は駅から遠く、公共交通機関で来館するにはバスが必要なので、土日には地元バス会社にコースを変更してもらい、来館者が利用をしやすいような連携をしている。

【県立博物館全体について】

○高橋議長：各館からの説明を聞いたが、県全体としてみたとき、運営のうまくいっているところ、課題だと感じているところあれば、文化振興課から御説明をお願いしたい。

→文化振興課：入館者数については、どの館もコロナで入館者数が減じてからコロナ前には戻りきれない状況が続いている。公金で運営している館であるため、多くの方に来てもらうということを共通の目標と認識して進めている。ただ、公立館の良さは安定的に運営できるという面もあるため、それも踏まえてやっていきたい。

（3）千葉県立美術館・博物館の評価制度について

資料3に沿って、文化振興課学芸振興室長から説明を行った。

○高橋議長：評価項目はどのように決められるのか。

→文化振興課：基本的には実施計画中に重点事業・指標を定めており、それに沿って決めている。

○閑沢委員：外部評価を出す際は、数値だけではなく館側からの特別に説明できるところ・良いところの記述を積極的に充実させるとよい。（4）に博物館協議会への意見聴取とあるが、県HP等で結果の公表は行わず、この協議会がゴールとなるのか。また、令和7年度の外部評価の結果の反映は令和8年度となるのか令和9年度となるのか、スケジュール感について伺いたい。

→文化振興課：外部評価の際には、自由に記載してもらうコメント欄を設ける予定。また協議会に報告した後、外部評価結果として公開の予定。全体のスケジュールについては、翌年度すぐ反映できるようにするか、1年かけて評価して翌々年度反映とするかは現在調整中。第2回協議会でスケジュールをお示ししたいと考えている。

○高橋議長：外部有識者による評価を毎年実施することだが、内容にそれほど変化がない中で毎年行うと、機械的になっていくのではないか。何年かに一回でもいい気がしたが、いかがか。

→文化振興課：現在のところ、毎年度実施の予定。

○高橋議長：大変かと思うが、よろしくお願ひしたい。

以上、議事終了。